北陸の大豆をめぐる事情



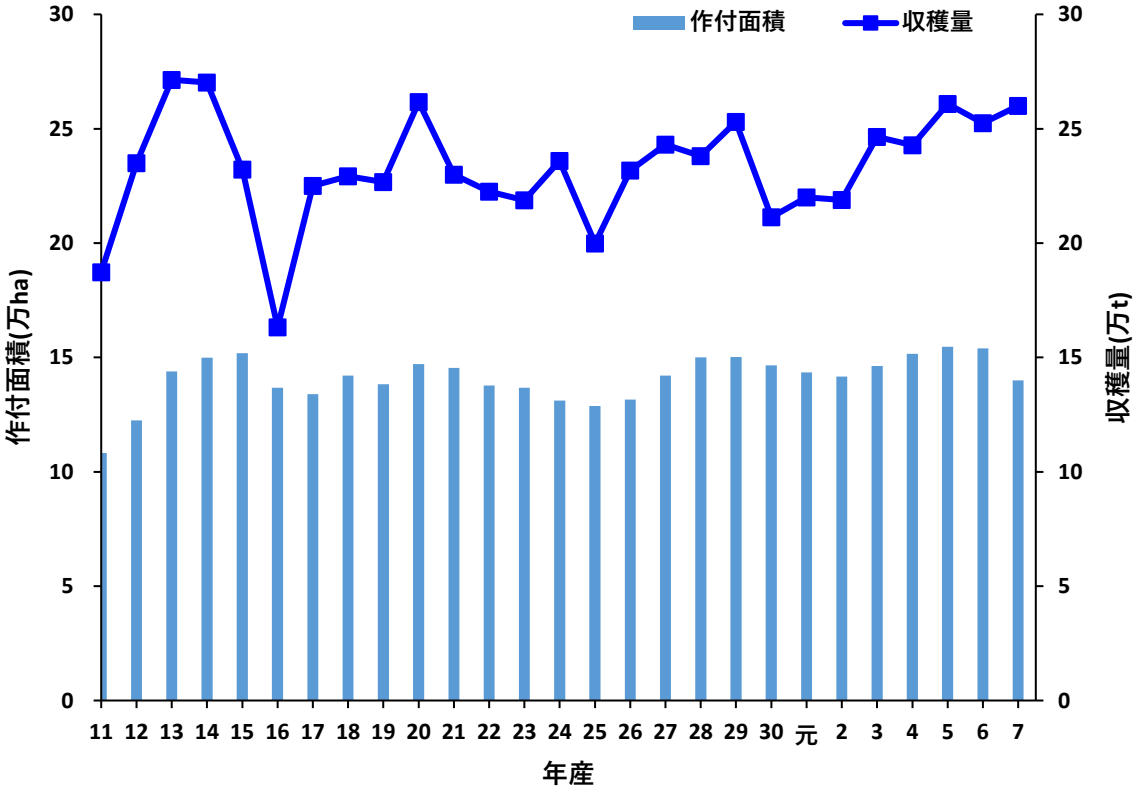
令和８年９月

北陸農政局生産部

１．大豆の作付動向と収穫量（全国）

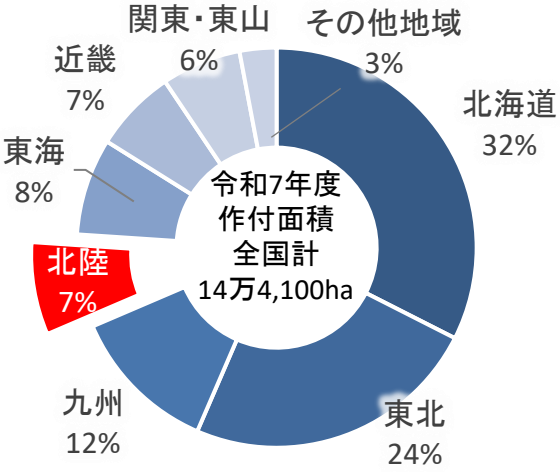
○　全国における令和７年産の作付面積は144,100haであり、前年産に比べ9,800ha減少。また、令和７年産の収穫量は261,200tであり、前年産に比べ8,800t増加。
○　北陸地域における令和７年産の作付面積は10,800haであり、全国の約７％を担っている。

◆大豆の作付面積と収穫量の推移（全国）



資料：農林水産省統計部「作物統計」

◆令和７年産の大豆作付面積（地域別割合）



◆令和７年産の大豆作付面積（上位５県及び北陸地域）

（単位：ha）

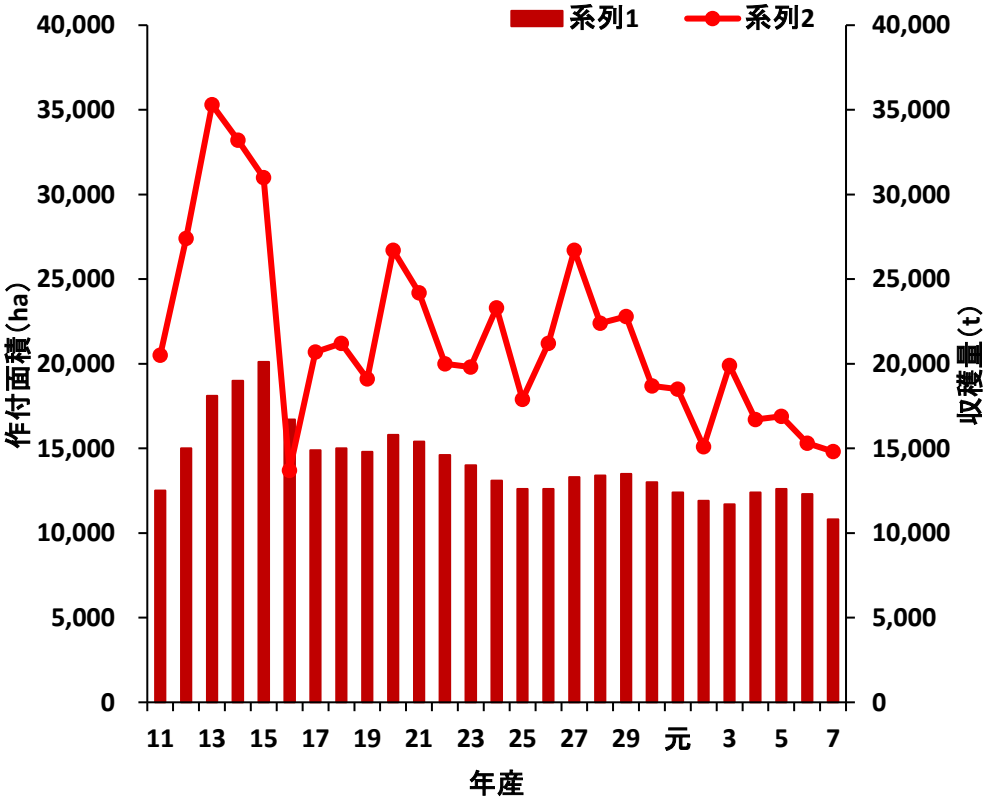
順位	都道府県	作付面積
1	北海道	46,800
2	宮　城	10,700
3	秋　田	8,100
4	滋賀	7,270
5	福岡	7,000
⋮	⋮	⋮
10	富山	4,180
⋮	⋮	⋮
13	新潟	3,650
⋮	⋮	⋮
20	福井	1,620
⋮	⋮	⋮
22	石川	1,350

資料：農林水産省統計部「作物統計」

２．大豆の作付動向と収穫量（北陸地域）

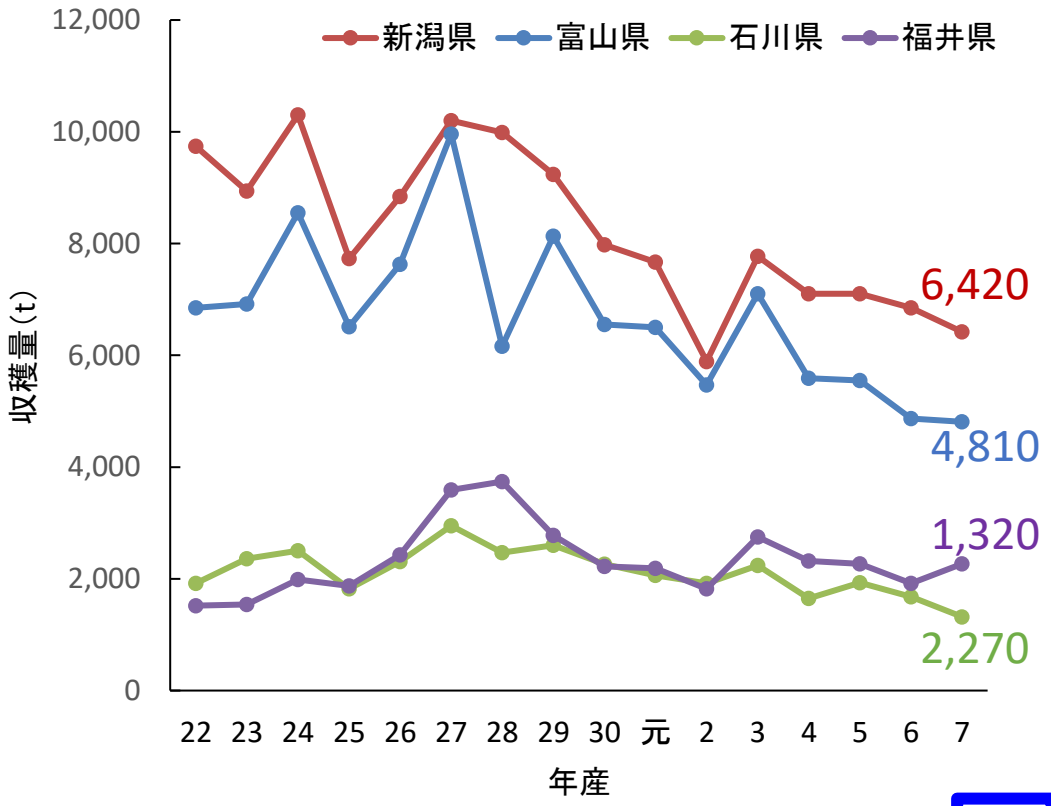
○　北陸地域における令和７年産の作付面積は10,800ha（新潟県3,650ha、富山県4,180ha、石川県1,350ha、福井県1,620ha）であり、前年産に比べ1,500ha減少。
○　収穫量は、気象条件等の影響により年次変動が大きく不安定な状況。北陸地域における令和７年産の収穫量は14,800ｔ（新潟県6,420ｔ、富山県4,810ｔ、石川県1,320ｔ、福井県2,270ｔ）であり前年産に比べ480t減少。

◆大豆作付面積と収穫量の推移（北陸地域）



資料:農林水産省統計部「作物統計」

◆大豆収穫量の推移（北陸地域）



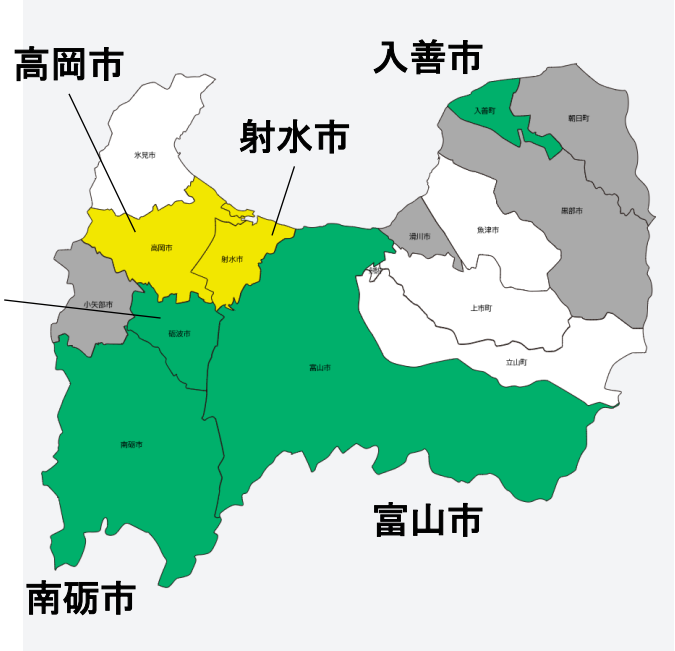
資料：農林水産省統計部「作物統計」

３．北陸地域の大豆の主要産地（令和７年産）

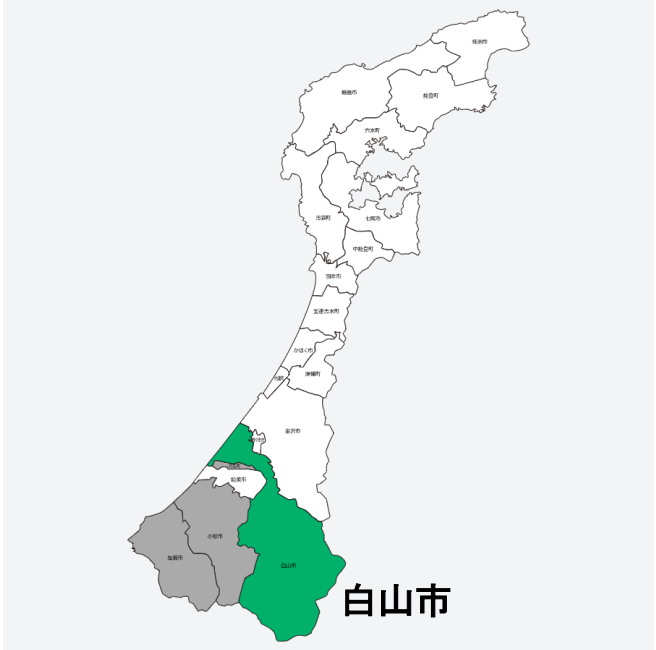
新潟県
3,650ha



富山県
4,180ha



石川県
1,350ha



（ha）

- ≧500
- ＜500
- ＜300
- ＜100

福井県
1,620ha

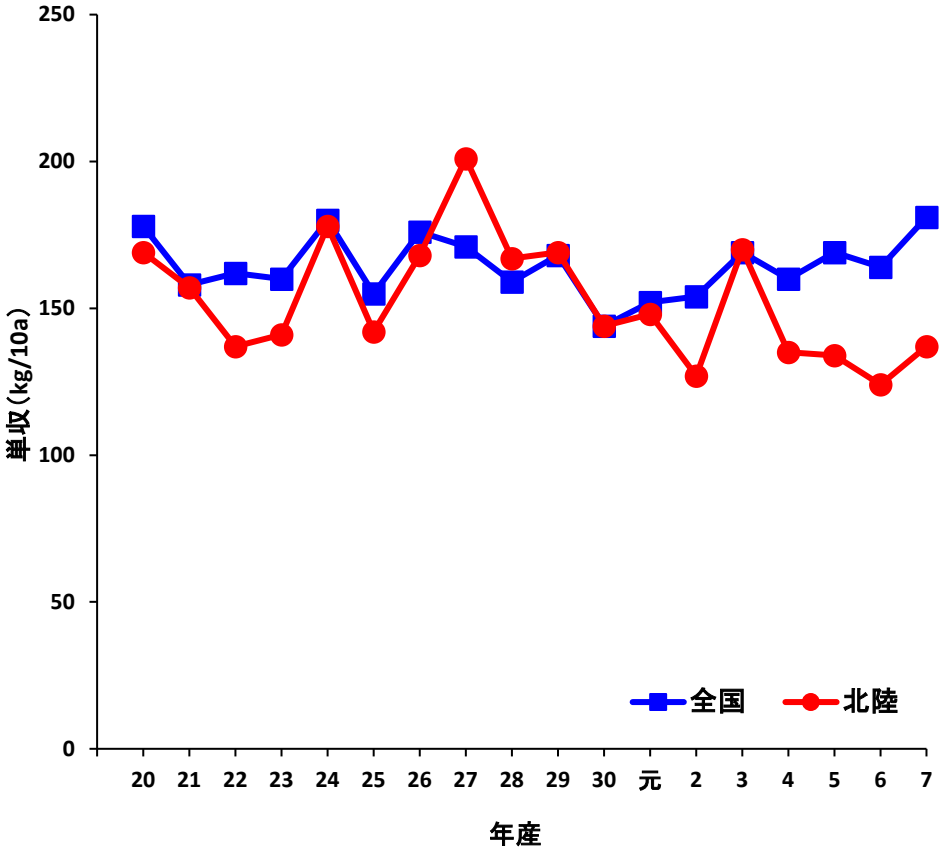


４．大豆の10a当たり収量（北陸地域）

○　「食料・農業・農村基本計画」における大豆の生産努力目標は39万ｔであり、目標の達成には、単収の上昇が必要であるが、北陸地域では気象条件等の影響により、年次変動が大きく不安定な状況。

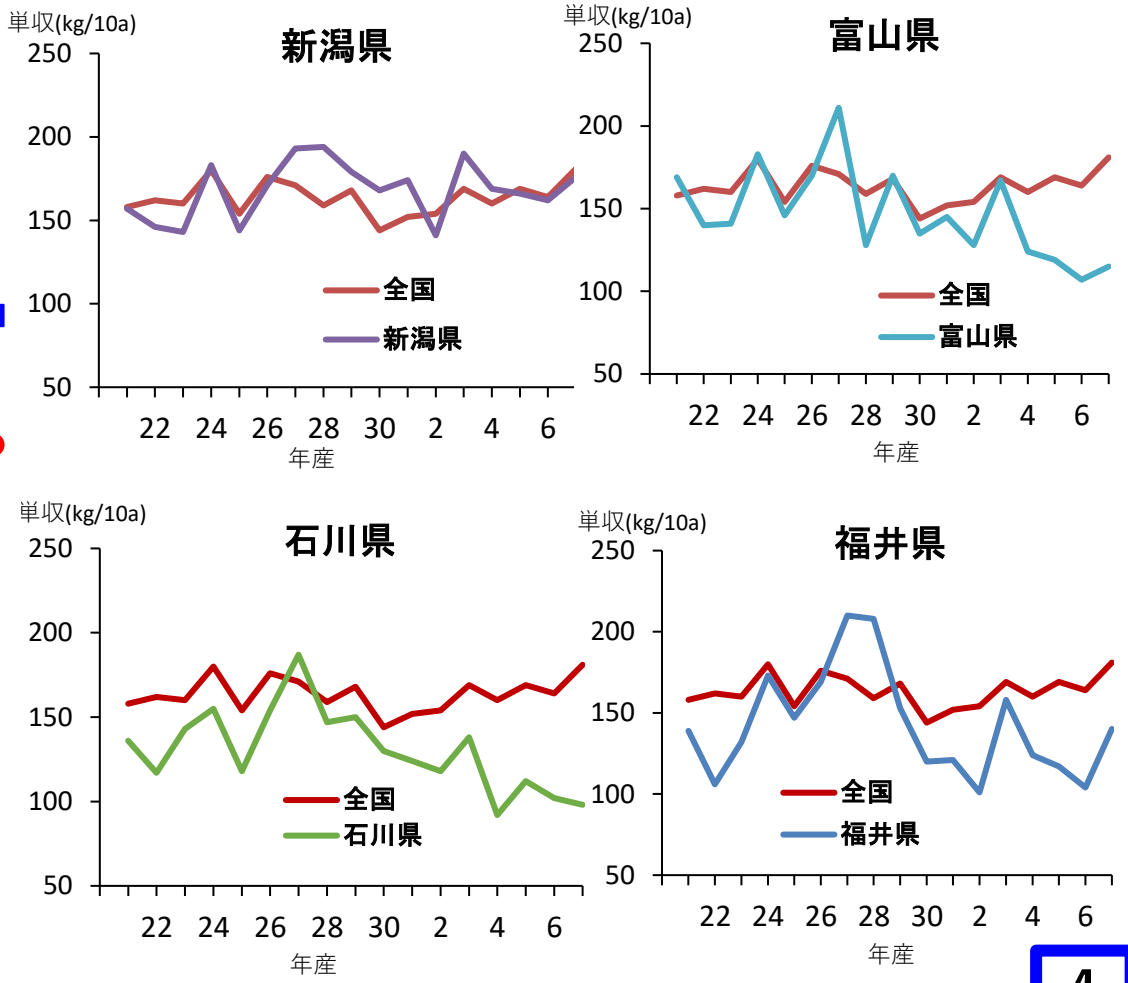
○　北陸地域における令和７年産の単収は137kg/10a（新潟県176kg/10a、富山県115kg/10a、石川県98kg/10a、福井県140kg/10a）であり、前年産に比べ10%増加。全国の単収は181kg/10aであり、前年産に比べ10%増加。

◆　大豆の単収の推移（全国及び北陸地域）



資料：農林水産省「作物統計」

◆　大豆の単収の推移（北陸地域）

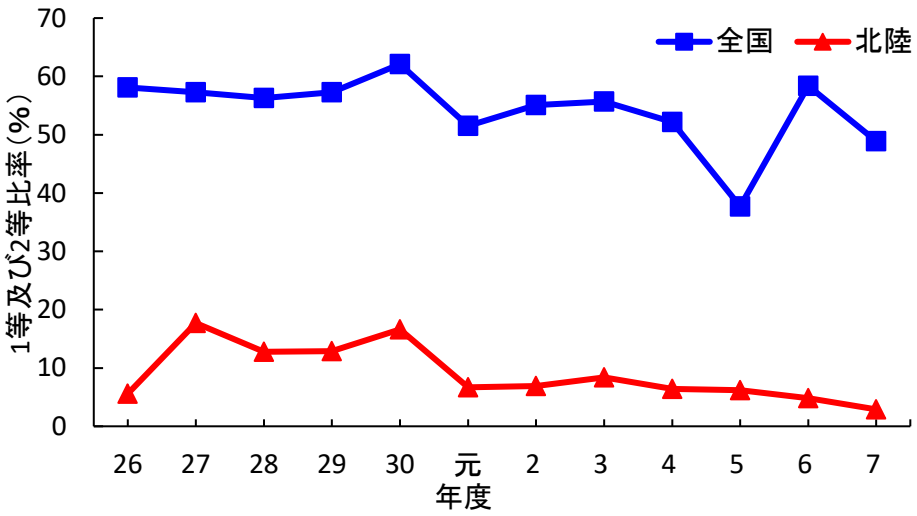


資料：農林水産省「作物統計」

５．大豆の品質（農産物検査結果）

○ 北陸地域における令和７年産の大豆の１・２等比率は2.9%であり、全国平均である48.9%と比較して大きく下回っている。

◆大豆の1・2等比率の推移（全国及び北陸地域）



令和７年産大豆検査結果（北陸地域）

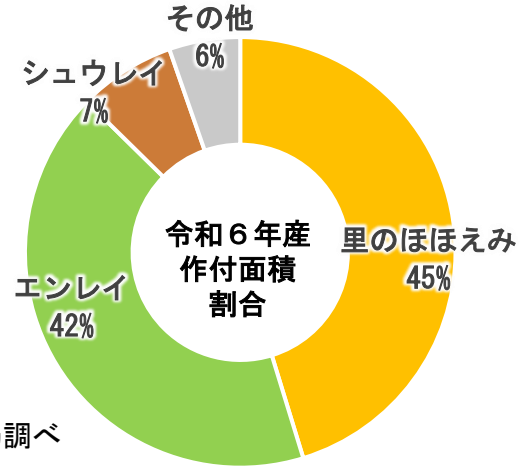
	検査数量 (t)	普通大豆 (%)				特定加工用大豆 (%)	種子大豆 (%)
		１等	２等	３等	規格外	合格	合格
北　陸	14,787	0.9	2.0	23.4	4.7	68.7	0.3
新潟県	6,300	1.7	2.5	30.5	2.9	61.7	0.7
富山県	5,025	－	0.1	11.1	7.2	81.6	－
石川県	1,275	0.0	0.2	4.2	6.1	89.5	－
福井県	2,187	1.0	6.2	42.5	2.9	47.3	－

注：普通大豆の規格外に、特定加工用大豆の規格外を含んでいます。
資料：北陸農政局調べ（令和７年産は、令和８年４月末現在）

６．大豆品種別の作付状況（北陸地域）

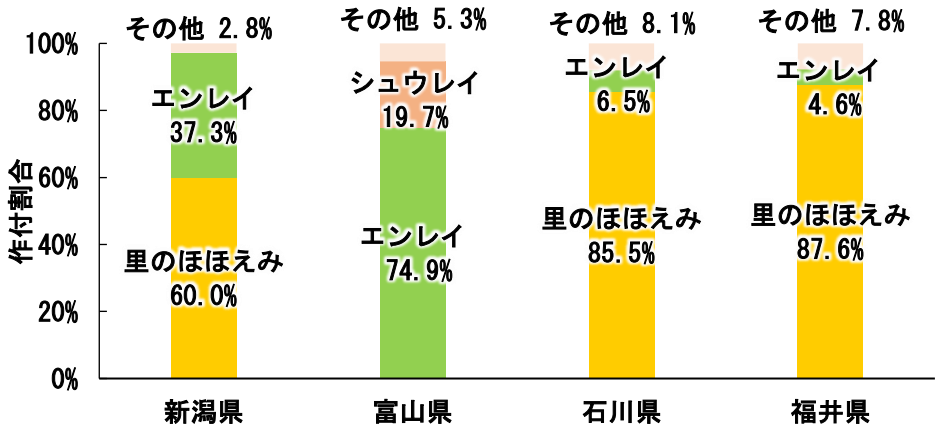
○　北陸地域における令和６年産の大豆品種別の作付状況を見ると「エンレイ」及び大豆新品種「里のほほえみ」がほとんどを占めている。
○　また、富山県では令和２年産から「エンレイ」に難裂莢性を導入した大豆新品種「えんれいのそら」への全面切り替えを実施。

◆北陸地域における大豆作付品種（令和６年産）



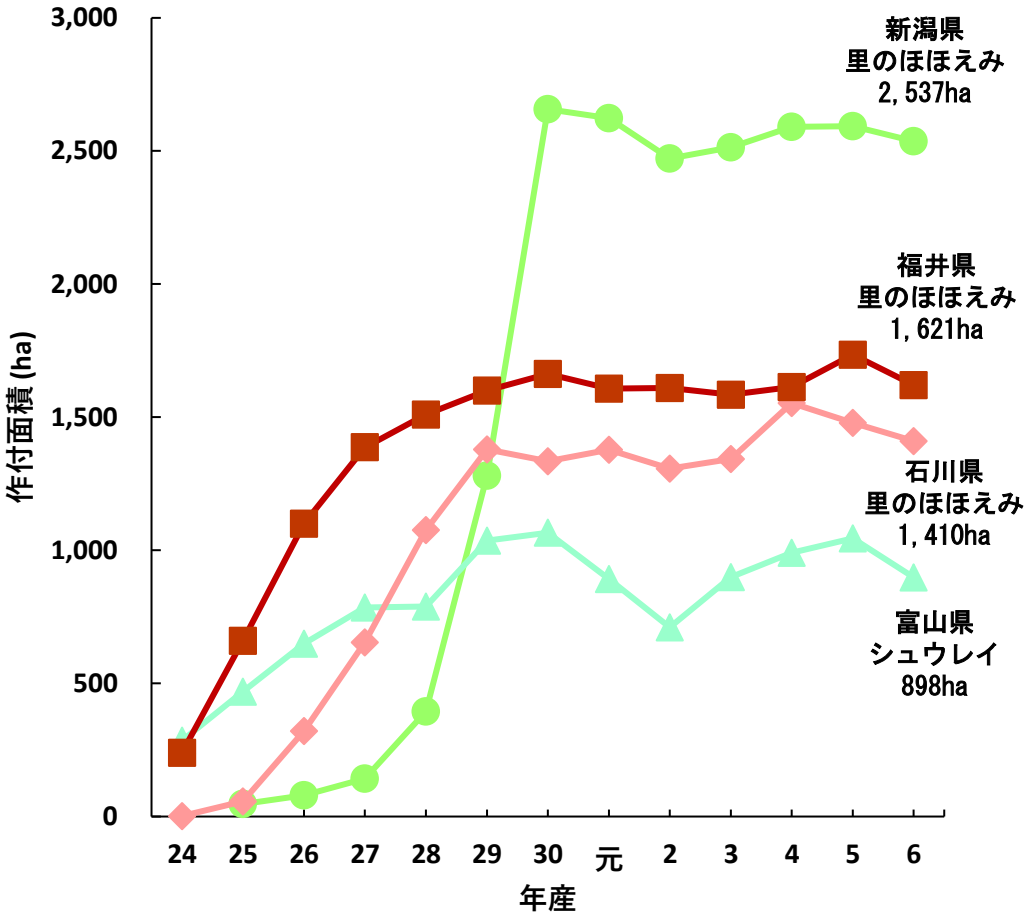
資料：北陸農政局調べ

◆北陸各県の大豆品種ごとの作付割合（令和６年産）



資料：北陸農政局調べ

◆北陸各県の新品種の導入状況

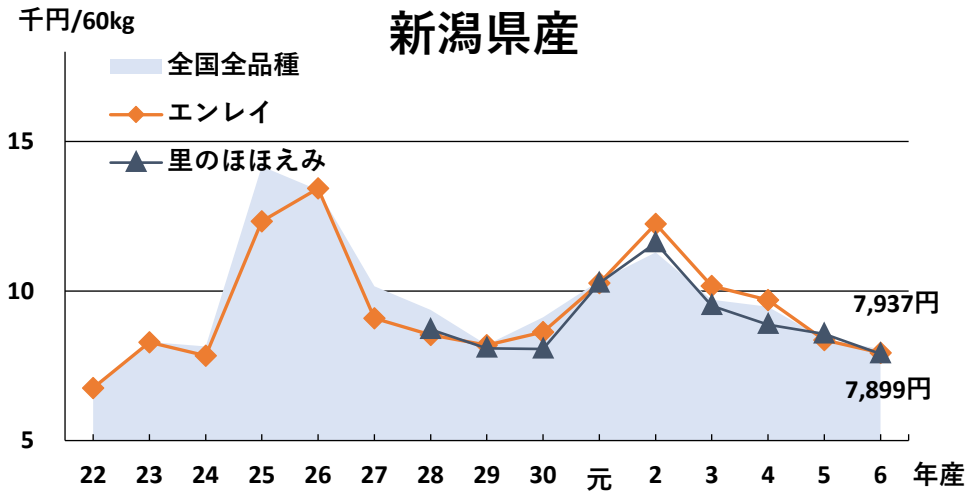


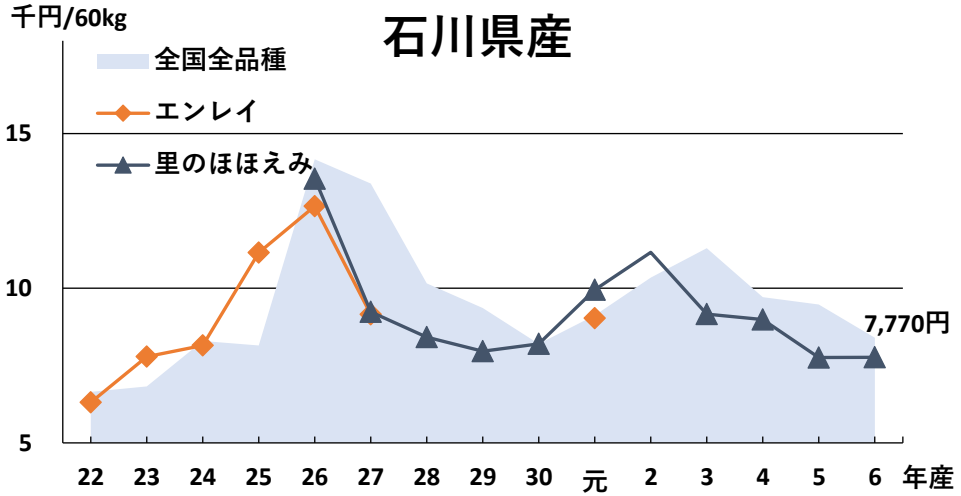
資料：平成24～25年産　　政策統括官付穀物課調べ
　　平成26～令和6年産　北陸農政局調べ

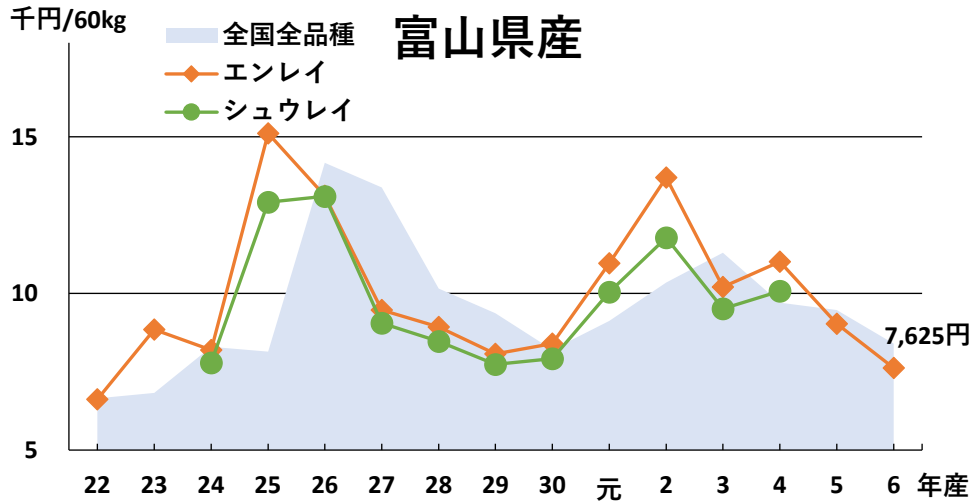
7. 大豆の入札取引価格の動向（北陸地域）

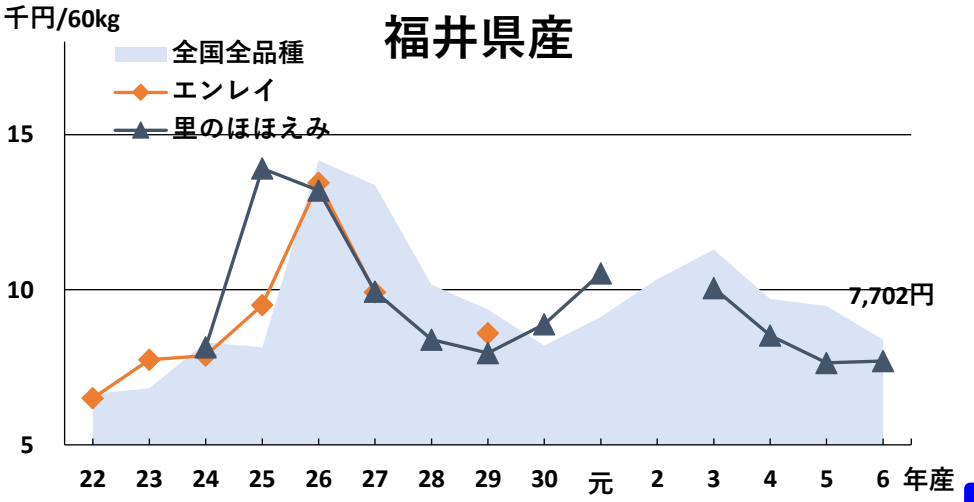
○ 北陸地域における令和６年産の主要な大豆品種の平均落札価格は7,625～7,919円/60kgであり、令和５年産に比べ▲1,107～125円/60kgで推移。大豆の生産は気象災害の影響等により減少する場合があり、これに伴い価格も大きく変動。

◆大豆の落札平均価格（全国及び北陸地域）









注：各県産の落札平均価格は、普通大豆（大粒・中粒）・特定加工用大豆（大粒・中粒）の落札価格の加重平均により算出。
資料：(公財)日本特産農産物協会大豆入札取引結果より

北陸大豆の課題・対策

【現状：令和７年産】

〇全国144,100haに対し、**北陸地域では10,800ha**と全国シェアは低い（約7%）。

〇**富山県**（4,180ha、うち田100%）及び**新潟県**（3,650ha、うち田96%）の**2県 で、北陸の7割**。

【課題】

【生産】

〇　収量は、

1　気象条件（高温、降雨、乾燥）

2　湿害（発芽率の低下等）

3　雑草による土壌養分吸収やダイズ黒根腐病等による被害

4　成熟期の高温、肥料過多等による青立ち、しわ粒の発生

により低下する傾向（品質も同時に低下）。

【販売】

〇　実需者が求める用途別の「品質」と「量」を把握し、実需者ニーズを踏まえた継続的な安定供給体制まで至っていない。

〇　全農（県本部、JA）への出荷のため、農家に実需者ニーズが届きにくく、作付拡大のインセンティブがない。

※主に豆腐用として、全農県本部等を通じて販売。

【対策】

【生産】

〇　収量確保のためには、基本技術（①排水対策、②播種期、③防除期）等に加え、品種にあった適切な肥培管理が必要。

1　土壌分析による施肥設計を行うとともに、有機資材等による土づくりを実施。なお、耕起、施肥、播種の一連の作業は、好天日に実施。

2　適期収穫や気象災害の分散・軽減等を図るため、10月に収穫可能な「えんれいのそら」や「里のほほえみ」などの品種を導入。

3　特に、青立ち、しわ粒発生抑制のための技術指導や横展開。

4　一定の品質・数量を確保し、作業効率を図るため、団地化も必要。

【販売】

〇　国産大豆を活用する実需者との結びつきを拡大するとともに、品質・量・価格等の実需者の要望を満たし信頼される大豆産地づくりが必要。

→地場産大豆の品質・特性をPR、実需者とのマッチングと大豆産地の団地形成を推進）

北陸麦・大豆サロン

水田の比率が高い北陸地域において需要に応じた麦・大豆生産を推進するために、実需者等からの声を届けるとともに、北陸地域の麦・大豆栽培上の課題克服に向けて情報提供及び意見交換を行う。令和7年度に**「北陸麦・大豆サロン～知っておきたい麦豆事情～」を令和８年２月10日（麦）及び2月4日（大豆）にオンラインにて開催。**

令和7年度

知っておきたい麦豆事情

北陸麦・大豆サロン

開催日時

麦 令和8年 2月10日(火) 14:00～16:30

大豆 令和8年 2月4日(水) 14:00～16:00

開催方法 オンライン(Microsoft Teams) ※事前申込制

どなたでも気軽にご参加いただけます！

麦プログラム

2月10日(火) 14:00～

✓ 小麦「夏黄金」の生産拡大の可能性とは
✓ 活用できるスマート農業技術とは
✓ 北陸産麦の需要の可能性とは

1 生産者からの話題提供



株式会社アグリとくみつ 代表取締役社長
大岸 修一 氏
(石川県白山市)

石川県白山市で大麦及び小麦「夏黄金」を栽培。
特に排水対策に注力し、全圃場で額縁明渠、心土破砕を実施。
また、播種や追肥等にスマート農業技術を活用することで生産性向上を実現。
令和元年度全国麦作共励会 全国米麦改良協会会長賞を受賞。

2 実需者からの話題提供



新潟県醤油協業組合 理事長
佐田 直人 氏
(新潟県長岡市)

県産小麦・大豆を100％使用した醤油「郷土の実り」を製造。
収穫や醤油の仕込み体験等、独自のイベントを開催し、国産原料にこだわった醤油の需要を創出。

YOKOI chocolate

横井チョコレート株式会社 営業部
伊藤 晃 氏
(福井県福井市)

県産の小麦・大麦にこだわり、ラスクや麦チョコ、ポン菓子等を製造。
自社商品のほか、県産麦を使用したOEM商品として全国展開を行う等、需要拡大に貢献。

3 試験研究機関からの話題提供

「麦作の生産性向上のための栽培技術について」
農研機構中日本農業研究センター

「小麦品種「夏黄金」等に関する品種情報について」
農研機構東北農業研究センター

4 意見交換



申込方法は裏面へ！

大豆プログラム

2月4日(水) 14:00～

✓ 気候変動に対応した栽培とは
✓ 安定供給のための流通面の取組とは
✓ 需要あり！実需が求める大豆とは

1 国産大豆の生産等をめぐる状況について

農林水産省農産局穀物課

2 生産者からの話題提供



堺町生産組合 組合長
徳茂 順一 氏
(新潟県長岡市)

新潟県長岡市で集落の大豆転作組合として生産を担う。
土壌診断に基づく資材散布等、収量向上に向けた取組に加え、畝間かん水や適切な時期に暗渠を閉じる等の気候変動の影響を踏まえた対応策を実施するなど、安定した単収の確保を実現。
平成24年度全国豆類経営改善共励会 北陸農政局長賞を受賞。

3 実需者からの話題提供



北川製油株式会社 代表取締役社長
北川 保博 氏
(富山県射水市)

県産大豆の使用にこだわり、豆腐、豆乳、煮豆に加え、需要拡大のために消費者ニーズに対応した豆乳スイーツを製造。



互明商事株式会社 大阪支店
松川 茂生 氏
(大阪府大阪市)

国産大豆の安定供給と流通の円滑化を図ることを目的に、「東海・大豆コンソーシアム」としてストックセンターを令和6年に整備。豊凶差が大きい国産大豆の安定供給体制を構築。

4 試験研究機関からの話題提供

「大豆生産性向上のための栽培技術等の情報について」
農研機構中日本農業研究センター



5 意見交換

申込方法 下記のURL又は右のコードから申込フォームにアクセスして必要事項を記入の上、お申し込みください。
https://www.contactus.maff.go.jp/j/hokuriku/form/seisan/251219.html
※お申込みによって得られた個人情報は、厳重に管理し、本イベントの運営に限り使用させていただきます。

今すぐアクセス!

申込締切 令和8年 1月28日(水) 17:00

お問合せ先 北陸農政局 生産部 生産振興課　担当者：土井、石原　☎ 076-232-4302(直通)

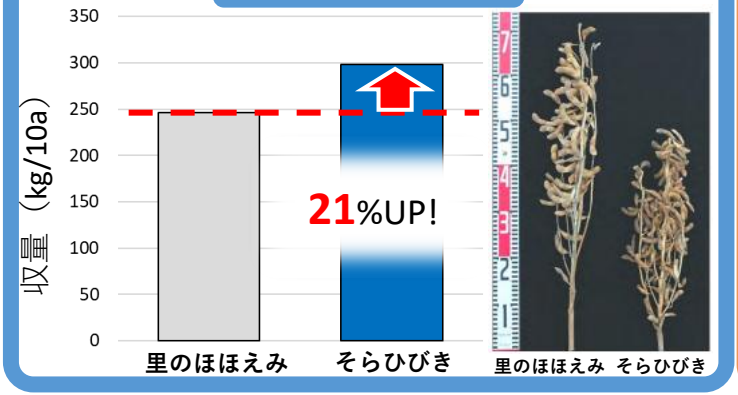
参加無料

（参考①）　普及が期待される主な新品種の例

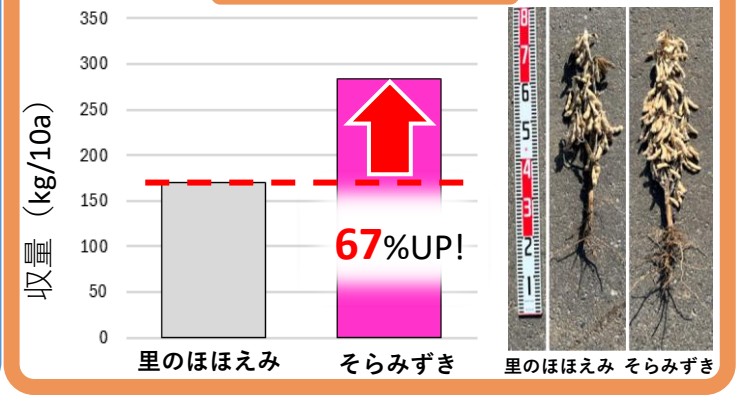
○　農研機構は、多収の米国品種と加工適性が高い日本品種を交配し、**国内で普及している品種と比較して２割以上多収**で、**豆腐等への加工適性**を有する新品種**「そらひびき」、「そらみずき」、「そらたかく」、「そらみのり」**を育成。
○　４品種とも、**莢が弾けにくい性質（難裂莢性）を持ち**、収穫時の脱粒損失等を抑制。
○　栽培適地は、**「そらひびき」は東北南部～北陸地域、「そらみずき」は東北南部～近畿地域、「そらたかく」は東海～九州地域、「そらみのり」は東海～九州地域。**
○　本州から九州の多くの産地をカバーし、**国産大豆の安定生産と供給を加速化することが期待。**

＜既存品種（里のほほえみ、フクユタカ）との比較（平均収量、草丈）　データ・写真：農研機構 提供＞

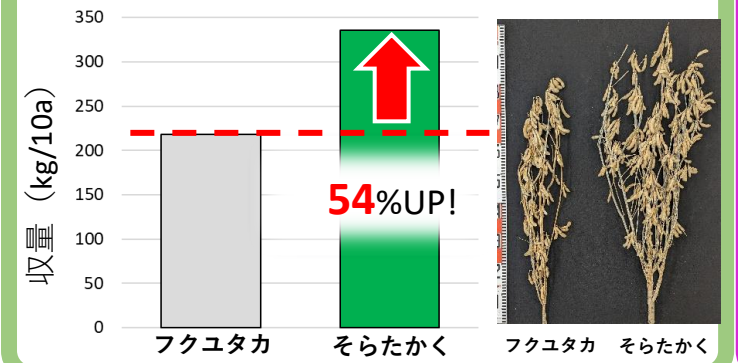
そらひびき



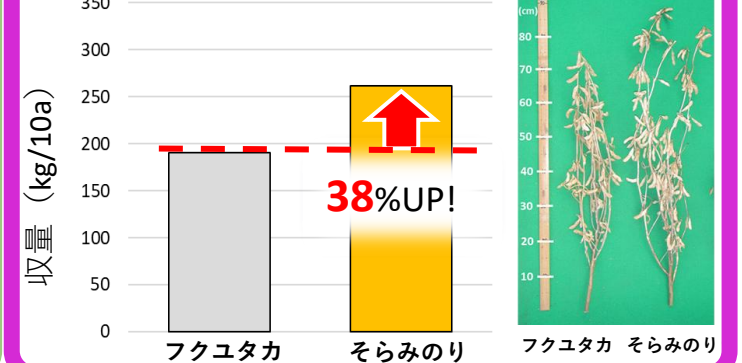
そらみずき



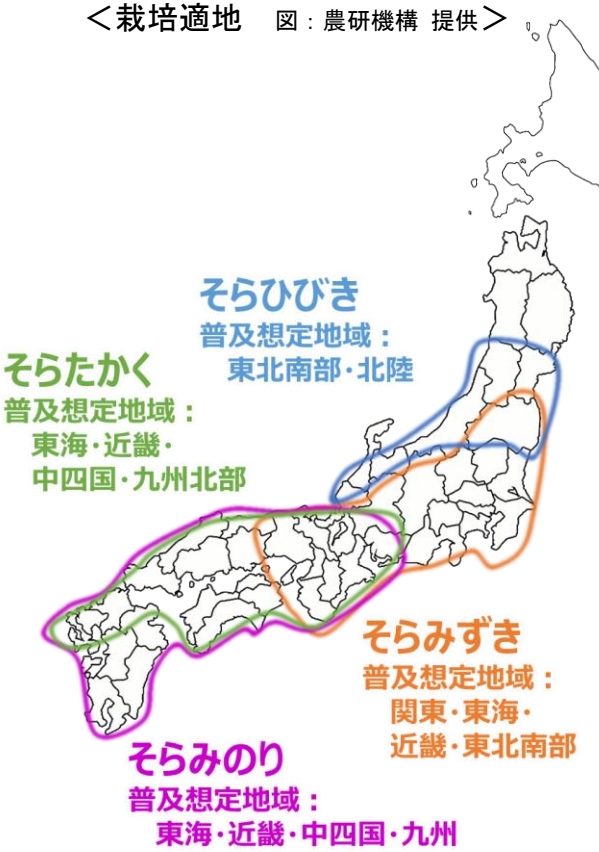
そらたかく



そらみのり



＜栽培適地　図：農研機構 提供＞



注１：平均収量の比較は、生産者ほ場における現地実証試験の結果（「そらひびき」については、石川県における３試験の平均、「そらみずき」については、茨城県における２試験の平均、「そらたかく」については、兵庫県、福岡県における３試験の平均、「そらみのり」については、三重県、兵庫県、熊本県における５試験の平均）。
注２：草丈の外観の比較は、草丈の外観の比較は、「そらひびき」については、秋田県育成地ほ場、「そらみずき」については、茨城県現地実証ほ場試験、「そらたかく」については、香川県の育成地ほ場試験の結果、「そらみのり」については、熊本県の育成地ほ場試験の結果。

（参考②）普及が期待される主な新品種の例

リョウユウ

ダイズシストセンチュウへの抵抗性を強化しています。

東北地域での重要病害虫であるダイズシストセンチュウによる減収や小粒化などの被害を抑制する

（導入予定地域：東北）

➢ ダイズシストセンチュウ発生ほ場での生育の様子



（中央2畦**リョウユウ**、両隣2畦ナンブシロメ）

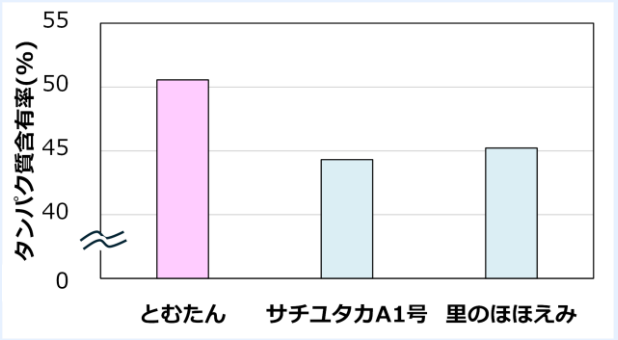
とむたん

タンパク質含有率が非常に高いです。

従来の品種と比較してタンパク質含有率が非常に高い

（導入予定地域：関東以西）

➢ タンパク質含有率の比較



※測定は近赤外分光分析法による

とよまどか

甘くて良く固まる豆腐ができます。

ショ糖含有率が高く、豆腐加工適性に優れ、低温障害に強い

（栽培地域：北海道）

➢ 低温栽培による裂開の様子



（**とよまどか**）



（ユキホマレ）

難裂莢性品種

収穫ロスが抑制され、高収量が見込めます。

これまでの品種に莢がはじけにくい性質（難裂莢性）を付与し、コンバイン収穫時のロスを抑制

○フクユタカA1号
（栽培地域：東海、九州）

○サチユタカA1号
（栽培地域：近畿、中四国、東海）

○えんれいのそら
（栽培地域：北陸）

○ことゆたかA1号
（栽培地域：東海、近畿）

○里のほほえみ
（栽培地域：南東北、北陸、関東）

○はれごころ
（栽培地域：近畿、中四国）

➢ 乾燥時の莢の様子



（難裂莢性品種）



（既存品種）

小麦・大豆の国産化の推進

令和８年度予算概算決定額　36百万円（前年度 35百万円）
〔令和７年度補正予算額　7,008百万円〕

＜対策のポイント＞
産地と実需が連携して行う**麦・大豆の国産化を推進**するため、施肥・防除体系の構築等による**生産性向上**や**増産**を支援するとともに、国産麦・大豆の安定供給に向けた**ストックセンター等の再編集約・合理化**や民間主体の**一定期間の保管**等、**新たな生産・流通モデルづくり**や更なる利用拡大に向けた**新商品開発**等を支援します。

＜事業目標＞［令和５年度→令和12年度まで］
○ 小麦生産量の増加（109万t→137万t）　○ 大麦・はだか麦生産量の増加（23万t→26万t）　○ 大豆生産量の増加（26万t→39万t）
○ 国産小麦・大豆の保管数量（小麦：28,774 t→ 90,000t、大豆： 6,258t→ 25,500t）

＜事業の内容＞

１．国産小麦・大豆供給力強化総合対策　**36百万円（前年度35百万円）**
【令和７年度補正予算】5,008百万円

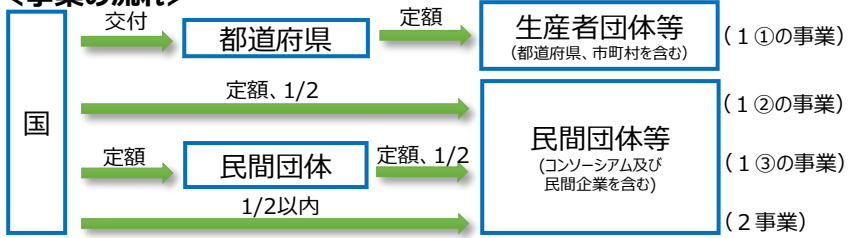
①　生産対策（麦類生産技術向上事業）
麦の生産性向上を目指す産地に対し、**施肥・防除体系の構築等**を支援します。

②　流通対策
ア　麦・大豆供給円滑化推進事業
国産麦・大豆を**一定期間保管**するなど、安定供給体制を図る取組を支援します。
イ　新たな生産・流通モデルづくり事業
麦の品質向上や極多収大豆の種子生産に加え、新品種の導入、フレコンの本格導入、実需者の加工試験など、**新たな生産・流通モデルづくり**を支援します。

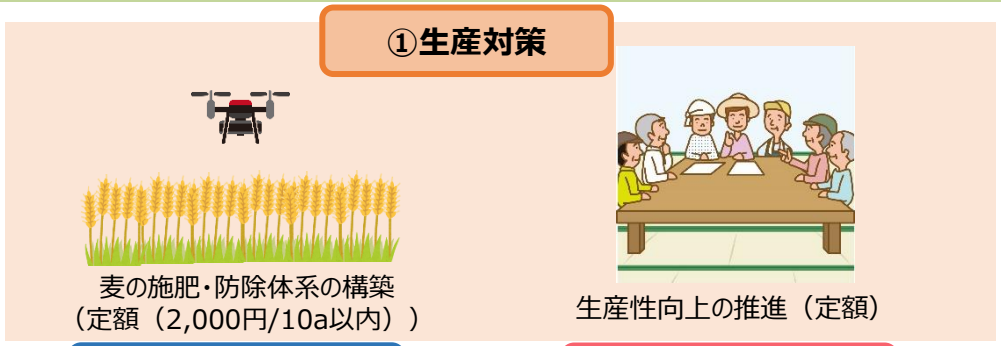
③　消費対策（麦・大豆利用拡大事業）
国産麦・大豆の利用拡大に取り組む食品製造事業者等に対し、**新商品開発**等を支援します。

２．新基本計画実装・農業構造転換支援事業のうち
麦・大豆ストックセンターの再編集約・合理化
【令和７年度補正予算】2,000百万円
国産麦・大豆の安定供給を後押しするため、**ストックセンター等の再編集約・合理化**を支援します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



麦・大豆の国産化を一層推進

［お問い合わせ先］
（１①、１②ア(大豆)、１②イ、２の事業）　農産局穀物課　(03-6744-2108)
（１②ア(麦)、１③の事業）　農産局貿易業務課 (03-6744-9531)

第52回（令和５年度）全国豆類経営改善共励会

第51回（令和４年度）　（参考１）

有限会社北井農産　北井博士、北井芳美（石川県白山市）
大豆家族経営の部　全国農業協同組合中央会会長賞受賞

作付面積	大豆 21.5ha
品種	里のほほえみ

〇面積拡大に伴い、従来の高畝栽培に加えて培土・除草等を省略できる狭畦栽培を導入することで省力化を図っている。

〇昨夏の高温・少雨条件においても、大規模ながらこまめな畝間かん水により収量を確保することで、安定経営を実現。

〇柏野地区農業を考える会の取りまとめ役を担い、集落を超えて団地化や生産調整に協力するなど、より効果的な農業を模索し、地域農業をけん引するトップランナーとして活躍。

農事組合法人　エコファーム水牧　（富山県小矢部市）
大豆集団の部　全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

作付面積	大豆 6.6ha
品種	えんれいのそら

〇特注の播種作業機により高畝化するなど、独自の排水技術を確立することで高単収を実現。

〇気象条件に応じた3～4回の培土作業、夏期の積極的な畝間かん水を徹底するなど、大豆の生育・収量確保や品質向上に向けたきめ細かな作業を実施し、経営の安定化を図っている。

〇地域内の大豆生産者からの信頼も厚く、JA管内でも模範的な栽培者として活躍。

有限会社ビガーラスファーム　（富山県下新川郡入善町）
大豆家族経営の部　農林水産省農産局長賞受賞

作付面積	大豆 22.8ha
単収	222kg
県平均単収比	179%
上位等級比率	23.8%
品種	えんれいのそら、シュウレイ

〇牛糞や土壌改良資材による土づくり、排水対策の徹底、品種特性や圃場の地力に応じた施肥などの基本技術を励行。

〇春先の代掻き作業と額縁排水溝の設置により排水性を高めるとともに、畝立て同時播種による高畝栽培において、通常よりも高い畝を確保できるよう播種作業機を独自に改良することで大規模ながら多収・高品質な大豆の安定生産を実現。

〇畜産農家と連携して地域資源の有効活用と積極的な土づくりを両立するなど、地域農業の振興に大きく貢献。



第50回（令和３年度）全国豆類経営改善共励会　（参考２）

有限会社　くらた農産　（石川県白山市）
大豆家族経営の部　日本豆類協会理事長賞受賞

作付面積	大豆14.6ha
単収	206kg/10a
県平均単収比	149%
上位等級比率	0%（特定加工用が59.4%）
品種	エンレイ，里のほほえみ

〇水稲・麦・大豆と露地野菜を組み合わせた輪作体系を確立しており、地力低下を抑制するとともに、農地の高度利用を実現。近隣の耕作放棄地を積極的に受け入れることで、分散化していた農地の団地化に寄与するなど、集落全体の生産性に貢献。

〇露地野菜の生産における土壌分析や排水対策（サブソイラ施工や額縁・ほ場内明渠など）の技術を活かし、安定した収量を確保。また、作付品種の生育特性に合わせ、エンレイでは畝立て同時は種による高畝栽培、里のほほえみでは狭畦栽培を行い、品種ごとに栽培技術を選択的に導入。

〇県外及び県内の味噌加工業者の需要に応じた栽培を実施。



↑畝立同時播種の作業風景

株式会社　あぐりー石（石川県白山市）
大豆集団の部　全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞受賞

作付面積	大豆9.6ha
単収	219kg/10a
県平均単収比	159%
上位等級比率	0%（特定加工用が56.8%）
品種	里のほほえみ

〇白山市石川地区を代表する中心的経営体で、大豆作付面積の拡大に向け、周辺農家と協力し、団地化を形成するなど、地域農業への貢献度も高い。リタイアする地域農家の受け皿として貢献しながら、米・麦・大豆の体系の下で規模拡大し、将来の地域の担い手として今後も期待される。

〇里のほほえみの特徴を踏まえ、これまでの畝立同時播種から狭畔栽培に変え、耕起・整地・施肥・播種までの機械化体系を確立。また、散布用ドローンを取得し、基幹防除で活用することで、適期防除と省力化を実現。

〇県内のみならず県外実需者の要望（味噌、醤油メーカー等）にも対応し、需要に応じた生産を展開。



↑スリップローダーシーダーによる狭畦密植栽培の作業風景

黒澤　与典　氏　（石川県白山市）
大豆家族経営の部　全国農業協同組合中央会会長賞受賞

作付面積	大豆1.7ha,5.8ha
単収	206kg/10a,　256kg/10a
県平均単収比	200%,194%
上位等級比率	0%（特定加工用が84.4%）
品種	エンレイ,里のほほえみ

〇水田での水稲、大麦、大豆に加え、園芸作物（水田露地野菜、施設野菜）の生産・販売を経営基盤とする農業法人。営農地である白山市を代表する大規模農業経営体の一つである。

〇栽培において、排水対策や土壌分析に基づく酸度矯正、畝立同時播種等、技術面での積極的な取組が見られ、10a当たり収量がエンレイで206kg(県平均の2倍)、里のほほえみで256kg(県平均の約1.9倍)と高水準である。

〇大規模経営同士の連携により、団地化が実現しているのも強みである。今後、センシング技術によるスポット的農薬散布を検討しており、環境重視の栽培方法に期待がかかる。



↑大豆の生育状況確認の様子

農事組合法人ファーム小栗山（新潟県見附市）
大豆集団の部　日本農業新聞会長賞受賞

作付面積	大豆6.3ha
単収	229kg/10a
県平均単収比	162%
上位等級比率	39.7%
品種	里のほほえみ

〇栽培においては、砕土率向上に向けた排水対策（弾丸暗渠等）の実施、耕うん同時畝立て播種機による播種、ブロックローテーションの実施、ドローンによる病害虫防除等、生産性向上に向けた積極的な取組を実施している。

〇経営面でも、完全自動飛行ドローンによる省力化や、農機具メーカーからデモ機を借りての導入検討等、低コストを意識しての経営改善に向けた各種取組に積極的な姿勢が伺える。

〇5.2時間/10aの省力化を実現していることや、県平均の単収が前年より低下する中で、前年度並みの229kg/10a(県平均の約1.6倍)を維持したことは技術の励行が成果として現れている。



↑完全自動飛行ドローンによる水稲病害虫防除の様子



↑耕うん同時畝立て播種の様子